



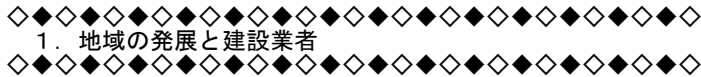
近畿ゆめ通信 第144号

◆◆ 本メールマガジンは、近畿地方整備局管内の市町村長様をはじめ、日頃から当局にご指導等をいただいております団体、個人の方々に送信させていただいております。皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。 mailto:otayori@kkr.mlit.go.jp ◆◆

2009年12月25日

目次

- 1. 地域の発展と建設業者
 - 近畿地方整備局 局長 上総 周平
- 2. 法隆寺の謎
 - 近畿地方整備局 営繕部長 西村 好文
- 3. 最近の話題
 - ◆観測史上最大の災害からコウノトリとともに復活！
 - ◆亀の瀬トンネル【幻のトンネル】の原型を発掘
 - ◆「夢洲コンテナターミナル供用式」を挙行（大阪港）
 - ◆「水の力」って、とっても怖いよ・・・！
～11月25日・26日神戸市立本山第二小学校へ出前講座に行ってきました～
- 4. おたよりコーナー
 - 『近畿の昔話 浚河茅議』 高野浩二
- 5. 事務局からのお願い



1. 地域の発展と建設業者

局長の上総 周平です。

都市部、地方部を問わず、地域が発展していく上で、社会基盤整備の実行部隊であり、災害時の応急対策部隊である建設業界の存在は不可欠なものです。それぞれの市町村でも、道路の維持補修工事や除雪作業などを行ったり、災害協定を結ばれている建設業者が身近におられることと思います。

しかし、公共投資が減少している今日、価格競争が激化し建設業界は疲弊しています。著しい低価格による入札やくじ引きによる落札が増え、技術力が低い建設業者が施工し、公共工事の品質低下が心配です。

このような状況に対処するには、発注者が建設業者の技術的能力を適正に審査し、価格と品質が総合的に見て優れた調達を行うことが必要です。平成17年に制定された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（いわゆる「品確法」）に位置づけられた総合評価方式は、これを具体化する方策の一つです。

近畿地方整備局が発注するほぼ全ての工事は、この方式を導入しています。また、管内2府5県では1割強がこの方式での発注となっています。管内の約220の市町村でも、この方式を導入するところは増えてきていますが、残念ながら、まだ約3割の市町村はこの方式を採用した経験がない状況です。

総合評価方式の活用によって、地域の建設業者の役割を適切に評価することも可能になり、一般競争入札の導入・拡大が図られ、また談合防止に一定の効果が期待されます。もちろん、評価の透明性を高める等、総合評価方式をさらに改善していく不断の努力は必要ではありませんが、

地域の社会資本整備と建設業界の健全な発展のため、是非、総合評価方式の積極的な導入をお願いします。

今年もあとわずかになりました。来年が皆様と地域にとって、輝く素晴らしい飛躍の年になりますことをお祈りします。

《執筆者紹介 <http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/maga/yume/pdf/kazusakyokucho.pdf>》



2. 法隆寺の謎

号が襲来し、戦後第3位の洪水流量を基準地点（立野）で観測しました。検証の結果激特事業中であるにもかかわらず事業の最終的な効果に匹敵する大幅な水位低下が図られ、浸水家屋被害を大幅に低減させたことが確認されました。

一方、円山川流域ではコウノトリが自然放鳥され、現在38羽が豊岡の空を自由に飛び回っています。激特事業では、コウノトリを初めとする鳥類の餌場や魚類の産卵場となる浅瀬を河川の掘削に合わせて確保するなど、自然豊かな円山川の環境の保全・再生と大規模な治水事業という、一見すると相反する命題の両立を目指し、実現しています。

豊岡河川国道事務所は、今後とも治水や環境も含めて、安全で安心できるふるさとの川を守っていきます。

【豊岡河川国道事務所 事務所長 齋藤 博之】

◆亀の瀬トンネル【幻のトンネル】の原型を発掘

大和川には大阪府と奈良県の府県境に亀の瀬の渓谷区間があり、その北側の斜面は明治以降に明治36年、昭和6～7年、昭和42年の三度の被害が発生した地すべり地です。三度の地すべりのうち最も大きな被害を与えたとされているのが昭和6～7年の地すべりで、北側の斜面にあった国鉄関西本線のトンネルが押し潰されて運行不能となり、南側の斜面にある現在のルートに切り替えて運行を再開した経緯があります。

この旧トンネルが地すべりによってどの程度の被害を受けたのかについては、資料が残されていないほか、坑口（入り口）が残っていないため調べることができず、地すべりによって破壊されてしまったとも考えられていました。

ところが、当事務所が亀の瀬地すべり対策事業として地下水排水トンネルを掘削していたところ、旧トンネルを下り線（大阪方面）、上り線（奈良方面）ともに偶然発掘し、このうち下り線の約40m区間は原型を残す良好な状態にあり、地下水排水トンネルへの影響はないことから保存することとし、12月9日、報道機関に公開しました。

旧トンネルは、下り線は大阪鉄道の開通時の明治25年に、上り線が複線化の大正13年に開通したもので、旧亀の瀬トンネルと呼ばれているレンガ構造のトンネルです。発掘された数十メートルの区間だけが地すべりによる破壊を免れたような状態でした。大阪府柏原市教育委員会によれば、「永らく坑口が封鎖されていたため遺存状況がわからず【幻のトンネル】とされていたが、関西本線開業に伴う約120年前の構造物がわずかな延長であったとはいえ良好な状態で遺っていたことに非常に価値がある。」とのことでした。当時の鉄道技術や地すべりの破壊力を知ることができる貴重な地域資源として活かしていきたいと考えています。

なお、報道を知った皆様から一般公開についての問い合わせも多く寄せられており、今後何らかの形で一般公開ができるよう検討していますが、現在は地すべり対策工事中でありますので、その準備が整うまでしばらくお待ちいただきたいと思っております。

記者発表資料『亀ノ瀬トンネル（明治25年開通）の原型を発掘』
<http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato/pr/20091209/20091209.pdf>

【大和川河川事務所長 安原 達】

◆「夢洲コンテナターミナル供用式」を挙行（大阪港）

12月16日に、海遊館ホール（大阪港天保山）において近畿地方整備局と大阪市の共催により、「大阪港 夢洲コンテナターミナル供用式」が関係者約200名の参加する中、華やかに執り行われました。

夢洲コンテナターミナルは、アジア主要港湾を凌ぐコスト・サービスを実現し、近隣アジア主要港の近年の躍進によって相対的な地位が低下している我が国のコンテナ港湾の国際競争力を重点的に強化するためのスーパー中枢港湾整備プロジェクトとして整備を進めています。今般、C-12岸壁の完成により、夢洲コンテナターミナルは直線1,100m 連続3バースの一体運用が可能となりました。

近畿地方整備局におきましては、夢洲コンテナターミナルが大阪港の新たな物流拠点として、8月に開通した夢咲トンネルとともに関西の経済復興に向けた重要な役割を果たし、ひいては我が国の経済を支えるゲートウェイへと発展することを期待しています。

【大阪港湾・空港整備事務所 所長 坂 克人】

◆「水の力」って、とっても怖いよ・・・！

～11月25日・26日神戸市立本山第二小学校へ出前講座に行ってきました～

5年生の理科の授業『流れる水のはたらき』に参加し、昭和13年の阪神大水害時の本山第二小学校区の被害の様子や、砂防えん堤の働き、ゲリラ豪雨の怖さについて説明しました。

昭和13年の阪神大水害では、本山第二小学校区のほとんどは土砂災害に襲われ、

